

中山間地域の農林地資源管理等を担う 第3セクターの現状と動向

— 第3セクターの活動状況等に関するアンケート調査結果から —

農業・農村領域主任研究官 橋詰 登

過疎化・高齢化によって農地や森林の荒廃が進む中山間地域では、農林地の保全管理や農林業振興を担う第3セクターに対して大きな期待が寄せられていますが、市町村合併の進展や自治体の財政状況の悪化等によって、近年、第3セクターを取り巻く環境は大きく変化しています。

本報告は、このような状況下で活動を続けている第3セクターの現状と動向を明らかにすることを目的に実施した、全国アンケート調査の集計・分析結果および類似の調査が実施された平成14年度調査結果との比較分析結果です。

アンケート分析結果の概要は以下のとおりです。

1 調査客体

振興山村地域内で農林業振興（森林・農用地の保全事業を含む）または地域間交流事業を実施している全国517の第3セクターに対してアンケートを実施し、340件の回答がありました（有効回答率66%）。回答があった第3セクターの組織形態は、「株式会社」が56%、「有限会社」が20%、「財団法人」が16%、「社団法人」が8%であり、1990年代に設立されたものが全体の62%を占めます。

また、平成14年度調査結果（以下、「前回調査結果」）との比較が可能な、森林または農用地の保全

事業を行っている第3セクターは、回答があった340事業体の41%に当たる141事業体です。

2 収支状況

第3セクターの収支状況を前回調査結果と比較すると、全体では「黒字」の第3セクターが38%から45%に増加し、「赤字」のものが37%から32%へと減少しており、前回調査以降、収支状況の改善傾向がうかがえます。これを農用地保全事業と森林保全事業を実施しているものに分けてみると（一部重複）、後者において「黒字」の第3セクターの割合が大きく上昇しています。

しかし、依然として「赤字」である第3セクターが農用地保全事業を実施しているもので32%、森林保全事業を実施しているもので30%存在しており、引き続き支援が必要です。

3 農林業振興に関する事業の実施状況

農業振興および林業振興に関する事業の実施状況を前回調査結果と比較すると、「農作業受託」、「間伐」、「保育作業」、「造林」、「素材生産・原木販売」といった生産活動に直接かわる事業を行う第3セクターの割合がいずれも低下し、「地元農畜産物の販売」、「農畜産物の加工・販売」、「特産林産物の加工・販売」、「木工品の製造・販売」

に取り組む第3セクターの割合が大幅に上昇しています。このことから、多くの第3セクターでは、収益性の高いこれら関連事業を積極的に経営に取り入れることによって、前述した収支改善へと結びつけていると推察されます。

4 運営および経営上の課題

第3セクターの運営および経営上の課題を比較すると、運営上の課題では「人材不足」を挙げたところが前回調査結果から9ポイント低下する一方で、「自治体の支援不足」が3ポイント上昇しています。

また、経営上の課題では「公益活動に対する収益性が低い」を挙げたところが17ポイントも上昇しており、昨今の農林産物価格の低迷等が第3セクターの収益性を一層厳しいものになっていることがうかがわれます。